

特集：小竹町長所信表明

5月10日に招集された第2回臨時会において、小竹町長が所信表明を行い、3期目の町政運営について所信を述べました。その内容についてお知らせいたします。



臨時会で所信表明する小竹町長

今後取組む具体的な施策について

保健・福祉・介護の充実

進展する高齢化への対応

近年、認知症を患う方が増加傾向にあるといわれており、これまでも認知症に視点を置いた介護予防事業や、地域の方々を対象とした、認知症サポーターの養成事業などを行っておりますが、今後とも認知症を正しく理解し、予防と早期治療に取り組んで頂けるよう、支援体制を更に充実させてまいります。

併せて、病気や障がいにより判断能力が不十分な方々が、消費被害にあわれたり、財産管理や、意思の決定に不利益が生じることがないように、町内における成年後見体制を早期に構築させるなど、心豊かに安心して生活していただけるよう、住環境整備を含めた支援体制の充実に努めてまいります。

子育て期間中の医療費助成

現在、子どもの医療費助成は、小学生までを対象に実施しておりますが、家庭の負担をできる限り軽減

はじめに

この度の、任期満了によります町長選挙におきまして、引き続き3期目の町政運営を担うことになり、大変光栄に存するとともに、その責務の重大さに身の引き締まる思いであります。

私は、初当選以来「小さくてもキラリと光るまち」「小さいからこそ

災害に強い安全・安心なまちの実現

台風や風水害、土砂災害、地震や火災から、町民の命を守るために、消防はじめ関係機関との連携を強化し、災害防止に努めてまいります。特に、東日本大震災の教訓から、「町民の命をいかにして守るか」という危機管理意識の徹底と、非常時における迅速な対応が強く求められております。

こうした中、更新時期の到来する公共施設等のあり方を総合的に見直し、津波対策に対応した複合施設への転換をはかり「より災害に強い町づくり」の実現に向け取り組んでまいります。

自立するまちづくり

財政の健全化

財政運営につきましては、行財政改革の推進と国の地方財政対策が好転していることから、財政指標の改善、基金残高の増加など町の財政は、健全傾向にあります。

今後とも財政の健全化を図りながら、産業の振興、地域の活性化、住民福祉の向上などに努めてまいります。

定住移住の促進

平成19年度から5年間で取り組んでまいりました第1期定住移住施策については、各種支援策のほか「レ・コード」の森ニュータウン宅地分譲事業」の効果もあり、当初の計画を大きく上回る83戸262人の定住移住実績となっております。

さらに、平成25年度から新たに21区分譲を開始いたします「レ・コード」の森スウィートタウン宅地分譲事業」には、定住移住効果に大きな期待をしておりますが、第2期定住移住政策及び省エネ機器導入補助事業並びに住宅リフォーム補助事業と連携を図った取り組みにより、定住移住を推進してまいります。

小竹町長 所信表明



町民の健康を守る各種健診事業

する目的で、対象を中学生まで拡大した助成事業を実施したいと考えております。

なお、助成の方法につきましては、子育て中の家庭に有効なものとなるよう、検討を進めてまいります。

生活習慣病の予防対策

疾病の予防は、町民の健康意識の高揚が肝要です。健康意識が高まれば、健康診断の受診率も高くなり、いきおい疾病の早期発見・治療が可能となりますので、引き続き保健師が中心となり、積極的に地域へ赴き町民の健康づくりを推進するとともに、がん検診などの保健事業や、予防接種などの感染症対策の受診率を高める取り組みにも意を用いてまいります。



新しく整備された東町の避難階段



新しい街並みが誕生した西泊津のレ・コードの森ニュータウン